2.自治会実施報告：集団資源回収事業説明会を実施

投稿者：**totoro2** 投稿日時： 2012/12/09 (697 ヒット)

１２月９日（日）１０時より班長さんを対象にして、平成２５年度から始まる「所沢松が丘自治会　集団資源回収事業」の説明会を開催しました。

＜集団資源回収事業説明会＞

所沢市役所の資源循環推進課 滝沢幸代副主幹さんより所沢市のごみの現状の話がありました。

現状は一刻も猶予されないほど窮迫しています。燃やしたごみから出る灰を埋め立てるために市外にお願いしていること。ごみを処理するための経費を抑えるためにも行政での資源回収でなく自治会などでの集団資源回収がこれからは必要になってくることの重要性を説明されていました。

＜資源循環推進課の説明＞

＜環境美化担当理事の説明＞

平成２５年から始まる自治会の資源回収の目的は少しでも燃やすごみの量を減らすことです。そのためには、生ごみと紙類、古布を混ぜて捨てないこと。紙類、古布は分離すれば立派な資源になります。

資源回収の具体的な方法としては、下記の内容を環境美化担当理事が説明しました。

(1) 実施日：平成２５年４月から、毎月第１金曜日　朝９時までに出す
(2) 出し方：新聞紙、書籍、段ボール、雑かみ、古布、牛乳パックの６資源にわけて出す
(3) 出す場所：戸別（門や玄関先）または集積所
(4) その他：新聞紙１ヶ月分（約10kg）で「トイレットペーパー」か「ビニール袋」のサービスがあります

質疑応答では、燃やすゴミの量を減らすのに効果のある「雑かみ（折込チラシ、パンフレット、紙袋など）」について、入れてはいけないもの（洗剤の箱、防水加工の紙など）を確認し合いました。

今日は班長さんを対象とした説明会でしたが、全会員への説明として資源回収のマニュアルを全戸配布する予定です。

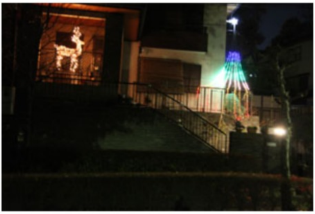
環境美化担当　松本　白井

0コメント

2.自治会実施報告：歳末防犯パトロールが実施されました！

投稿者：**totoro2** 投稿日時： 2012/12/08 (341 ヒット)

１２月８日（土）夜６時から吾妻地区防犯協会と連携した地域安全活動の一環の「歳末防犯パトロール」が実施されました。
夕方から師走の冷たい風が強くなり寒さが身に凍みる中、防犯担当の班長さんが中心となり、多くの班長さんと理事のみなさん合計47名の多くの方により９ブロックのそれぞれのブロック内をパトロールしました。



<寒い中、イルミネーションが映えていた>

<中央会館でパトロール結果の受付>

そのパトロールの結果を以下のとおり報告いたします。

«パトロールチェック項目»
（１） 不審者、不審物の有無
とくになし

（２） 防犯灯、市街灯の点灯状況　（球切れなど）

防犯灯　１基　市街灯　２基　計　３基

（３）門灯の点灯状況
未点灯数　２２３宅　　約１９％
昨年と同様な点灯状況で、残念ながら改善はされていませんでした。

（４）防犯上、交通上問題となる個所
・中央公園前の横断歩道が暗い
・１丁目で暗く、また樹木が繁り過ぎ標識が見えにくい個所がある
・２丁目で交差点が暗い個所があり、防犯灯がほしい

（５）その他気づいたこと
最近２丁目（８ブロック）で若い男が携帯をいじったり、缶コーヒーを飲みながらうろついている姿が目撃されているとの情報がありました

以上の結果報告について現場を確認したうえで今後対応を検討して参ります。

参加されたみなさんには寒い中パトロールを実施していただき
ありがとうございました。

防犯担当理事　林　一正　宮下　昇

0コメント

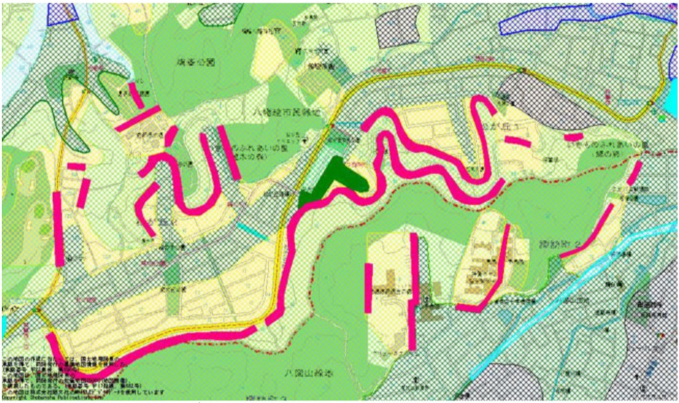
2.自治会実施報告：第２回防災セミナー報告

投稿者：**totoro2** 投稿日時： 2012/12/08 (575 ヒット)

８月５日（日）の第１回防災セミナーに引き続き、１２月２日（日）、午前１０時から中央会館で第２回防災セミナーが開催されました。当日はかなり寒かったのですが、５３名の会員の皆さんが出席されました。ありがとうございました。また、日曜日にも拘わらず沢山の資料や見本を持って来てくださった講師の所沢市総合政策部危機管理課・松村健志氏にも厚くお礼を申し上げます。元消防官の方を含めて多くの方々から良いセミナーだった、参考になったとのプラス評価を頂き激励されましたが、主催者側としても感謝に堪えません。

＜防災セミナーの様子＞

前回は、阪神淡路大震災を体験された日本銀行神戸支店長（震災当時）の遠藤勝裕氏による、被災経験に基づいた防災・減災への提案がテーマでした。今回は私たちが実際に居住している所沢や松が丘地区の現状に視点を合わせた防災・減災対策についてお話ししていただきました。私たちの身近なことだけに出席者の関心は高かったのではないでしょうか。特に、所沢市の防災・減災対策が、阪神淡路大震災以降ひときわ関心を集めている立川断層帯地震や東京湾北部地震に加えて、所沢市を震源とする未知の地震も想定していることに感心させられました。



＜松が丘のGIS　崖や盛土等を地図上に表示＞

第１回防災セミナーでも話題になりましたが、阪神淡路大震災の時に、被災直後の倒壊した家屋等から誰が助けてくれたかを見てみると、まずは家族（３２%）、ついで隣人・友人（２８%）だったという調査データがあります。消防等行政が助けてくれたのはわずかに５%でした。これは、道路が倒壊物や陥没などで救助車両が通れなくなっていたためで、救助も物資補給もできませんでした。このことから、生活必需品を消防・警察・自衛隊などが本格的に動けるようになるまで、３日分程度備蓄したら良いという考えが生まれたようです。

松村氏のお話では、家庭でできる対策を取るのが一番の防災・減災になるので、家庭にある身近なものを見直し、どれが被災時に役立つのかを考えることが必要とのことでした。例えば、食料品、飲料水、常用薬、乳児がいればミルク、懐中電灯・電池、情報を得るための携帯ラジオ、トイレットペーパー、etc.　備えておくと便利なものとして、段ボールとビニール袋を使ったボックストイレの組み立てデモを見せていただきましたが、これも用意できれば有用だと思いました。また、これらの置き場所にも配慮が必要で、一か所だけにせず１階と２階に置いたり、台所だけでなく居間や奥の部屋などに置くことも考えてみてはどうかとのことでした。常用薬については、富山

の薬売り方式で調達するのも無駄なく且つ有効期限を心配なく常備する一法とのお話には興味を引かれました。掛かりつけ医の処方との関連をしっかり押さえておく必要はあるでしょうが。

<非常持出袋の中身の説明>

<ボックストイレの組み立てデモ>

　このように自分たちでできることをするのが「自助」です。次に、自分たちだけではできないので近隣の人たちと力を合わせてすることが「近助」・「共助」です。そして消防など行政の力で行うのが「公助」です。今回のセミナーでは、防災・減災は「自助」に始まり「近助」・「共助」へつなげ、「公助」を受ける形になり、災害からの脱出も「自助」、「近助」・「共助」、「公助」と発展する事を学びました。このことからも、近所の人たちとのつながりが大切であることを改めて認識させられました。なんでも自分でできる、他人の助けは要らないと考える人もいるでしょうが、本当にそうでしょうか。今こそ、人と人とのつながりを大切にし、まずは心地よい楽しい日常生活を築きあげ、結果として非常時の無意識のうちの自然な助け合いが生まれてくる、そんな気がします。勿論、押し付けは避けなければなりませんが、自治会の会員同士が知恵を出し合い、素晴らしい人間関係を作り出せればいいですね。

防災・消防担当　桑原洋二郎

0コメント

2.自治会実施報告：元気な子供たち！ キッズフェスティバル開催される

投稿者：**totoro2** 投稿日時： 2012/11/19 (761 ヒット)

　１１月１８日（日曜日）午後一時半、マザーズ・ポケットの人形ミュージックショーで、キッズフェスティバル開演。中央会館には子供８０名、大人２６名、合計１０６名が集まってくれました。

＜人形ミュージックショー＞

みんな目を輝かせて、ショーに夢中です。舞台を指差して興奮です。子供たちとマザーズ・ポケットが共同で創造するエキサイティングな瞬間でした。

＜目を輝かせる子供たち＞

＜人形劇の可愛い人形さん＞

ショーのあとは、工作とゲームコーナーそして綿アメ製造体験です。

工作コーナーは、"いきものふれあいの里センター"と共同で準備した、"どんぐりで作るトトロ"、"木の枝と実で作るクリスマス飾り"そして"松やにを使ったぶんぶんセミ"です。小さな子供たちには"手形・足形"を用意しました。子供たちはみんな興味しんしんで作品に挑戦です。子供と一緒に夢中になっているお母さん、お父さん、お祖母さん、お祖父さんも沢山いらっしゃいました。

自治会役員、学童見守り隊そしてOBOGの皆さんも、大忙しで子供たちに制作指導です。実は、皆さん事前に"いきものふれあいの里センター"の方から作り方を教えてもらってました。急造先生だったのです。

＜どんぐりで作るトトロ＞

＜木の枝と実で作るクリスマス飾り＞

＜松やにを使ったぶんぶんセミ＞

＜手形・足形＞

ゲームコーナーは、"くっつき虫"を使った的あてとペットボトル　ボーリングです。みんな景品をねらって興奮。ペットボトルを並べる係は大変でした。

＜"くっつき虫"を使った的あて＞

＜ペットボトル　ボーリング＞

綿あめを自分で作れるコーナーは凄い人気でした。なにしろ自分でくるくる綿あめ製造です。和室の喫茶コーナーで早速味見です。うん甘い！　ほぼ全員がすべてのコーナーを楽しめました。飛び込みアイデアで、バルーンバレー、ジャンケン大会も楽しみました。　そして４時半、お土産のお菓子をもらって中央会館から帰宅しました。楽しい日曜日の午後でした。

<自分でくるくる綿あめ製造>

<ジャンケン大会>

今年から始めた新しい行事です。いったい何人の子供たちが集まってくれるか？　行事担当は正直不安で夜も眠れませんでした（笑）。　沢山の子供たちの嬉しそうな笑顔を見て、やっと安心出来ました。さて、来年はどんなプログラムにしましょうか？

行事担当理事　小林、柏崎、天野、菊一

0コメント

2.自治会実施報告：平成２４年度の福祉出前講座

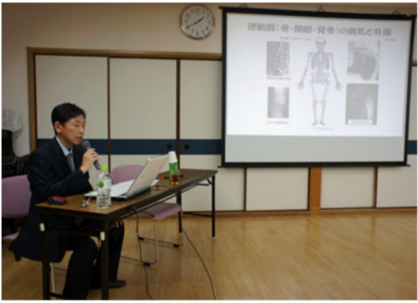
投稿者：**totoro2** 投稿日時： 2012/11/12 (458 ヒット)

１１月１０日（土）午後１時３０分より松が丘中央会館において、本年度の福祉出前講座が吾妻地域包括支援センターとの共催で開催されました。この講座は松が丘交流広場の協賛を得たものです。講師の先生並びに演題は次の通りです。
講師：吉田整形クリニック院長　吉田太郎先生
演題：「ロコモティブシンドローム」について

吉田整形クリニックは、久米の介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム「ところの苑」の前にありますので、ここで診療を受けた会員の皆さんもいらっしゃるのではないでしょうか。このクリニックは単なる整形外科ではなく、リハビリテーション科を持っておりますので、ご高齢者のけが予防や事故防止にも関心が深く、その院長先生に福祉講座をお願いするのは最適であると判断しました。

＜大盛況の福祉出前講座＞

当日は５５名の会員の方々にご参加いただきましたが、用意した机や椅子が足りず、急遽追加するほどの盛況でした。加藤芳夫自治会長の挨拶に引き続き竹内もみ吾妻地域包括支援センター所長のご挨拶と吉田先生のご紹介があり、講座は開始されました。


運動器（骨・関節・背骨）の病気と外傷

骨、間接、背骨、神経、筋肉などの「運動器の障害による要介護の状態、および要介護リスクの高い状態をロコモティブシンドローム（運動器症候群）」と言うそうです。講座はプロジェクターを使って進められ、運動器の病気と外傷から始まり、ロコモティブシンドロームの原因、防ぐためのトレーニングなどのお話をしていただきました。多くの高齢者は、「長期間、運動器を健康に保つことは難しく、運動器障害が複数ある人が多い」と言うのは衝撃的でした。運動機能障害は徐々に進むことから、まず自分で気付くことが大切なようです。

吉田先生は、公益社団法人日本整形外科学会の推奨するロコチェックを引用されて、次のような７つのチェックポイントを教えてくださいました。この一つでも当てはまればロコモティブシンドロームである心配があるそうです（数字の順序に意味はありません）。
(1)家の中でつまずいたり滑ったりする、(2)１５分くらい続けて歩けない、(3)横断歩道を青信号で渡りきれない、(4)階段を上るのに手すりが必要である、(5)片脚立ちで靴下がはけない、(6)２kg程度（１㍑の牛乳パック２本）の買い物をして持ち帰るのが困難である、(7)家のやや重い仕事が困難である（掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど）。
このような場合の簡単なトレーニングも教えていただきましたが、意外と簡単でした。まず実行する事、無理をせずできる範囲で続けるのが大切とのことでした。参加された方は当日配布されたプリントにトレーニングが説明してありますので、復習の意味も込めてご覧になってはいかがでしょうか。

吉田先生の丁寧なお話に、参加された皆さんは思い当たる節もあるのでしょうか、真剣に聞き入っていました。最後に、質疑応答、松が丘交流広場の海老沢愛之助さんの挨拶などがあり、午後３時３０分に終了しました。

福祉担当　桑原洋二郎、霜田　昭（１丁目）、佐野明子（２丁目）

当日配布されたプリントが若干残っておりますので、お友達やご近所の方に差し上げたいという方は自治会までご連絡ください。